

今回の改訂にあたって、本文中に取り上げられたもの、取り上げられていないもの、いろいろとりまぜて“トピックス”をまとめてみました。

第61回式年遷宮執行される

昭和60年(1985)から8年にわたって準備が進められてきた伊勢神宮の第61回式年遷宮は、すべての準備が完了し、平成5年(1993)10月2日に内宮、10月5日に外宮の遷御が行われました。式年遷宮は20年に一度の大行事で、社殿や神宝のすべてが新しく作り替えられます。翌平成6年(1994)3月末までは古殿が残されており、20年に半年だけ、新旧の社殿が並び建つ姿を見ることができます。

またこれに関連して、伊勢市内の内宮門前町、いわゆる「おはらい町」も整備され、これまで継続されてきた町並修景事業のほか、路面の石畳化工事なども実施されました。赤福本店向かい側には、新しく「おかげ横丁」も姿を現し、賑わいをみせています。

石割峠車道化、土屋原バイパスなど工事始まる

車両通行可能な区間が年々伸びる傾向にある本街道ですが、ついにというべきか、平成5年(1993)から石割峠の車道化工事が開始されました。現在は峠の部分を開削にするかトンネルにするかが決定しておらず、準備工事として従来の道を拡幅した程度ですが、いずれ路肩整備や舗装なども行われることと思います。そのほか、369号線御杖村土屋原地区、飼坂トンネルに接続する368号線美杉村立川～奥立川地区付近などで新道の工事が着々進められています。

「歴史街道」構想のテーマコースに

鳴り物入りで始まった「歴史街道」の構想のなかに、本線とは別にテーマコースが設けられることになり、「伊勢参りコース」もそのひとつとなるようです。美杉村などは、早速上多気の交差点に「歴史街道」のロゴ入り案内板を立てていますが、詳細なコースが決まっていないう現在、これは少々気が早いというべきでしょうか。

目立つ!!けど怪しい!!近鉄のシール

もうおなじみの近鉄ハイキングですが、フリーハイキング重点に方針を変更した結果、迷う人が続出…でもしたのでしょうか、当初迷いやすい分岐点だけだった「伊勢参宮本街道ハイキングコース」というシールが、山中といわず町中といわず、至る所に貼られています。なかにはかえってハイカーを悩ませるようなものも散見され、また、特別ハイクのさいの屋食場所などもこのシールによって案内されているため、紛らわしいことこの上ありません。特別ハイクの客も大事でしょうが、それと関係のないハイカーを惑わせるような方法は問題があります。一時的な表示なら撤収まで責任を持つか、永続的なものにするならもう少しよい方法を考える。いずれかの必要がありそうです。

案内標の整備、各地で進む

これとは別に、沿道各自治体による本格的な案内標の整備も進んでいます。この1年の間でもっとも進展したのは美杉村で、村内のおもな分岐点に「伊勢本街道」を示す案内標が建てられました。特筆すべきは、これが「双方向案内」であること。榛原町の石造道標をはじめ、各地の道標・案内標はなぜか伊勢向きだけを案内し、奈良向きの表示のないものが目立ちますが、美杉の新設案内標は伊勢から奈良へ向いても迷わず歩けます。美杉の場合、名松線を利用して奥津から歩くハイカーが多いという事情はありますが、逆向きに歩く人もいる以上、ほかの町でも見習ってほしい部分です。

ほかに、榛原町や飯南町などで案内標の拡充が行われました。

伊勢での新宿舎は「日の出館」に ～4日目・5日目 コース0.5km 延長～

宮前館廃業を受けて、伊勢での宿舎が変更されました。新宿舎は伊勢市駅前(吹上一丁目)の日の出館です。旧宮前館前から外宮前、「神宮参道」経由で伊勢市駅までがコースに加わり、この結果、4日目・5日目の距離はそれぞれ0.5km増となります。

なお「農協」については、平成4年(1992)4月より愛称「JA」の使用が開始されましたが、奈良県内でもいまだに不統一があります。「JAはあくまで愛称で正式には今も農協」ということですので、ここでは看板を改めた支所なども在来通り「農協」と表記しています。

毎年改訂という形態は、この改訂版をもって最後とします。以後は3～4年ごとに本編を改訂、その間の状況の変化は「速報」的な小冊子に編集する予定です。